

## 家族で山をさるこう会

- 第1回 中止
- 第2回 令和3年10月2日(土)～3日(日)
- 第3回 令和3年12月11日(土)～12日(日)
- 第4回 令和4年3月12日(土)～13日(日)

【担当：小野 栄策】



### 1. 事業の背景

本事業は、美しい自然の残る長崎県多良山系等の登山や散策を通して豊かな自然と触れ合いながら、参加者同士の親睦を深め、生きがいきづくりと健康づくりの一助とすることを目的に、平成28年度から実施しています。「さるく」とは、長崎の方言で「ぶらぶら歩く」という意味です。当初は年間8回、比較的利用団体の少ない水・木曜日に事業を実施し、1日目にレクリエーションや登山についての勉強会、参加者同士の親睦会を行い、2日目の登山、散策へとつなげるプログラムが定着し、参加者の声を生かした内容構成が好評を博していました。継続して参加する方、退職後のスタートするきっかけに参加する方、生きがいきづくりで参加する方等、様々な想いを持って参加してくださり、四季折々の風景に感動しながら、参加者同士和気あいあいの雰囲気を実施していました。

今年度から、様々な立場の人たちが気軽に参加できるように土・日の開催にし、家族対象の事業として内容を一新することとしました。また、今後の運営の幅を広げるために、公立青少年教育施設と連携し、多良山系にこだわらず、長崎県内の様々な山に目的地を広げて実施しました。

### 2. 事業の趣旨

長崎県内の公立青少年教育施設と連携し、県内周辺の山や散策路の登山・トレッキングを行うことで、自然に親しみ登山に興味を持たせるとともに、家族・スタッフ・参加者同士の親睦を深め、健康づくりの一助とする。

### 3. 目標

- (1) 長崎県内の公立青少年教育施設と連携し、登山プログラムの企画運営を行い、スタッフ交流を積極的に図る。
- (2) 県内（連携施設）周辺の山や散策路の登山・トレッキングを行うことで、自然に親しみ登山に興味を持たせる。
- (3) 登山講師を招聘し、登山講座、安全指導を実施し、基本的な登山技術を身につける。
- (4) 参加者、スタッフ同士の親睦を深め、コミュニケーション力を高める。

### 4. 対象

自然や登山に興味・関心がある方とその家族、一人でも参加可能（20名程度）

## 5. 事業の実施

### (1) 事業計画

宿泊場所	目的地、日程等
諫早青少年自然の家	目的地：五家原岳（諫早） 開催日：令和3年5月22日（土）～23日（日） ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止
千々石少年自然の家	目的地：普賢岳（雲仙） 開催日：令和3年10月2日（土）～3日（日）
佐世保青少年の天地	目的地：烏帽子岳（佐世保） 開催日：令和3年12月11日（土）～12日（日）
世知原少年自然の家	目的地：安満岳（平戸） 開催日：令和4年3月12日（土）～13日（日）

### (2) 参加者

目的地	学年、人数、男女別			
第2回 普賢岳	幼児	3名	(男子2名、女子1名)	
	小学生	11名	(男子7名、女子4名)	
	大人	12名	(男性2名、女性10名)	
			合計	26名
第3回 烏帽子岳	幼児	3名	(男子2名、女子1名)	
	小学生	2名	(男子1名、女子1名)	
	大人	7名	(男性1名、女性6名)	
			合計	12名
第4回 安満岳	幼児	2名	(男子2名、女子0名)	
	小学生	5名	(男子4名、女子1名)	
	中学生	1名	(男子1名、女子0名)	
	大人	7名	(男性2名、女性5名)	
			合計	15名

### (3) 基本プログラム

※各回の日程は基本プログラムを基に、連携施設と調整して決定

1日目	2日目
15:30 長田みのり会館集合	6:30 起床
16:00 宿泊施設へ移動	7:00 朝食
17:00 到着、受付、開会式	8:00 清掃、出発準備
17:30 入所オリエンテーション	8:30 宿泊施設出発
18:00 夕食	9:30 登山開始
19:00 宿泊施設での体験プログラム	12:00 山頂（昼食）
20:00 入浴	13:30 下山
21:00 自由時間	14:30 宿泊施設到着、閉会式
就寝	16:00 長田みのり会館到着、解散

#### (4) 活動の様子



#### 【普賢岳登山】

標高 1,359 メートルから大パノラマを体感でき、島原半島の自然の美しさと力強さを感じ取れる普賢岳を目的地としました。

千々石少年自然の家では、広場から星空観察をしました。天候にも恵まれ、施設職員の丁寧な説明があり、天体望遠鏡を使い、月や木星、土星などを観察できました。また、出発の準備として登山講座を行いました。下見で調査した見所や難所を事前に周知しておくことで、山登りへの不安解消を図り、目的意識を持って登山に臨めるようにしました。

普賢岳登山では、参加者の登山歴、年齢、体力などに応じて2つの登山チームを編成して登りました。また、途中のリタイアに対応できるよう複数の登山ルートを設定しました。仁田峠から見える火砕流の痕跡、バードウォッチング、風穴からの涼しい風、鳩穴休憩スポットからの絶景、間近に見ることができる平成新山、頂上の反り立つ岩など見所満載の登山ルートでした。

山頂で、全員で撮った集合写真は、苦勞を乗り越えて登り切った家族の笑顔がいっぱいで、達成感に満ち溢れています。

#### 【烏帽子岳登山】

烏帽子岳は標高 568 メートル、佐世保富士と呼ばれています。山頂周辺部は西海国立公園に指定され、360 度の眺望が開け、佐世保市中心部や九十九島を一望することができます。その中腹に位置する佐世保青少年の天地では、施設自慢の移動天体観測車「ビュースター」で星空を観察したり、展望デッキから佐世保の夜景を堪能したりしました。

隠居岳、烏帽子岳登山では、参加者の登頂意欲が途切れないように、全行程や休憩ポイントなどを出発前に説明し、見通しを持って歩けるようにしました。また、親子のペースで歩けるように、職員を等間隔に配置し、常に声かけを行いながら支援にあたりました。その結果、歩行距離約 10 km以上の道のりを、親子や参加者同士で励まし合いながら全員で完歩することができました。

おいしい昼食、微笑ましい雑談、スタッフの笑顔、乗馬施設から垣間見た馬、山頂からの景色などに癒されながら参加者は登山を楽しんでいました。ゴールした証として施設スタッフから木製のメダルを頂き、思い出の一つとなりました。

登山事業に複数回参加した家族も多く、前回の登山の経験を生かされたこと、何よりも子供たちの成長が感じられたことを喜んでいました。全員、無事にけがなく帰ってこられたことが一番の成果だと登山ガイドからも好評をいただきました。



### 【安満岳登山】

標高 534 メートルの安満岳は、平戸最高峰の山です。安満岳はもともと、休みの岳といい平戸鎮護の霊山として崇められていました。歴史的な神社、遺跡が数多く残り、山頂からは絶景展望が広がります。登山だけではなく、歴史散策も楽しめるこの山を目的地としました。

世知原少年自然の家では、登山について参加者が、聞きたいことや不安、悩みについて、オレンジハイキングクラブ登山ガイドの方がアドバイスする形で座談会を開きました。「登山に適した服装は」「持っていくべき持ち物は」「登山に役立つ携帯アプリの使い方」など今後の登山に役立つような情報交換を行いました。

コース設定の際、参加者が見通しを持って山登りに臨めるように、安満岳周辺の観光地を訪れ、今から登る山を下から眺める活動からスタートしました。「今から登る山がはっきりイメージできたこと」また、山頂から「出発前に訪れた道の駅や橋が確認できたこと」で時間的、空間的つながりが生まれました。また、食事場所として設定した鯛ノ鼻自然公園は、展望台、駐車場、トイレ、広場がきれいに整備されており、家族団らの場所として最適でした。

コロナ感染拡大状況が終息に向かい、春の天気の良い週末に、たくさんの家族で登山を楽しむことができました。

## 6. 評価

### (1) アンケート結果（研修全体に対する満足度）

目的地	満足	やや満足	やや不満	不満
普賢岳	100%	0%	0%	0%
烏帽子岳	100%	0%	0%	0%
安満岳	100%	0%	0%	0%

### (2) 参加者の声

- ・はじめて、土星の輪を見ました。とてもきれいな星空を見ることができて、感動しました。夜、大きなお風呂に入れて気持ちよかったです。（普賢岳編参加者）
- ・岩の登り方を優しく教えてくれました。励ましてくれたり、声をかけてくれたりして安心感がありました。（普賢岳編参加者）
- ・自分たちだけでは、山登りをしようと思いませんでした。子供が下りにくそうにしていた時、しっかり指導していただきました。（普賢岳編参加者）
- ・大変有意義でした。子供がぐずっても皆さんがフォローしてくださりました。靴や手袋、リュックなど山登りの勉強をして取り組もうと思いました。（烏帽子岳編参加者）
- ・2回目の参加ですが、前回より歩きやすい山だったので良かったです。説明も的確でわかりやすかったです。みなさんとても優しいです。（烏帽子岳編参加者）
- ・登頂手前の石の道がすごく神秘的でとても元気をもらった感じでした。5歳の子も一緒に登れてよかったです。（安満岳編参加者）
- ・コロナ禍が続く、休日に家族で登山をやってみたいと思っていました。知らない山は不安なので、今回はとても役に立ちました。（安満岳編参加者）

## 7. 成果と課題

### (1) 成果

- ・「さるこう会」を長崎県内の各公立青少年教育施設と協力して行い、スタッフ間の連携が図れました。特に、他施設の職員が事業に参画し、コース設定の企画や参加者の安全管理、自施設のプログラムの提供などを行えたことは、とても意義深いことでした。
- ・親子参加型の登山プログラムに内容を一新し、はじめての登山への不安解消、子供たちの困難克服体験、山頂到達による達成感、参加者同士の交流などを図ることができ、登山への興味・関心が高まりました。
- ・登山ガイドからのアドバイス（コース選択、準備運動、安全指導、休憩の取り方、登山の楽しみ方など）をプログラムに反映できました。

### (2) 課題

- ・幅広い年齢層、登山経験の違いなど参加者の実態を生かした登山ルートの設定を慎重に行っていく必要があります。
- ・年間を通して、計画的な登山講座の位置づけが必要です。
- ・今回は、施設連携を重視して登山ルートを考えましたが、参加者のニーズを把握し、それに見合ったプログラムを提供する必要があります。

### (3) 今後の展望

今年度に育んだ他施設との事業連携の結びつきを維持し続けるために、本所職員も登山事業の運営に参画し、1つの登山事業を両方の施設で募集し、協働で実施するなど、登山事業の連携方策を探っていきたいと考えています。

また、本所で提供している五家原岳登山プログラムについても、五家原岳の魅力を伝えるとともに、困難克服体験、登山者同士の助け合い、登頂時における達成感、安全意識の向上など登山体験が持つ教育効果を広く発信し、多くの団体、青少年の利用につなげられるよう定期的なイベント等の実施も考えたいです。

さらに、蓄積された登山事業の運営技術を今後引き継ぐために、自然の中を「歩く」活動を中心に据えた事業を検討したいです。登山、ハイキング、トレッキングが持つマイナスイメージを払拭するためにも、「愛犬と散歩しよう」「山菜を探して料理しよう」「歴史散策」など、参加者が好んで歩けるような活動を取り入れ、青少年の体力低下という課題へ向き合いたいと考えています。